

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	小島 正憲	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
総合演習Ⅱでは学習指導要領（7領域）の理論を学び、実践することである。特に、専門スポーツ実習時にできていない種目や不得意であった種目の課題を各自で設定し、その課題が出来るよう練習計画及び練習方法を模索し、最後に発表をする。そのことで、課題を達成するための必要なPDCAサイクルを学びつつ、教員やスポーツ指導者を目指す学生の実践力を高める。また、授業のいずれかの回に「健康実践演習」が入る予定である。しかしながら、現在のところは日程が不明であるため、分かり次第、授業内に組み込み学生にも伝える。また、本学体育館はエアコンがないため「熱中症警戒アラート」やそれに近い環境になり、担当教員が危険と判断した際は急な授業変更（シラバス通りにはならない）がある。その場合は受講生の成績に不利益が生じぬよう対応する。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で授業を実施する。授業内容に応じて、ディスカッション及びグループワークを取り入れる。また、学んだことや作成した資料については積極的に発表する時間を設ける。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	受講に関する諸注意、学習の進め方について説明する。 加えて、「健康実践演習」の事も説明する。	☐
第2回	実践授業【体づくり運動：体力を高める運動】	学習指導要領の7領域にある【体づくり運動：体力を高める運動】の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	☐
第3回	指導計画と学習指導案の作成	前期に作成した学習指導案をもとに、指導（健康実践演習：1年生）するための計画と打ち合わせをする。	☐
第4回	指導型授業①	作成した指導計画をもとに、実際に指導をする（健康実践演習：1年生の指導、内容は体育実技系）。	☐
第5回	指導型授業②	作成した指導計画をもとに、実際に指導をする（健康実践演習：1年生の指導、内容は体育実技系）。	☐
第6回	指導型授業③	作成した指導計画をもとに、実際に指導をする（健康実践演習：1年生の指導、内容は体育実技系）。	☐
第7回	実践授業【器械運動：マット運動の基礎的な技】	マット運動の基礎的な技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	☐
第8回	実践授業【器械運動：マット運動の発展技】	マット運動の発展技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	☐
第9回	実践授業【器械運動：跳び箱運動の切り返し技】	跳び箱運動の切り返し技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	☐
第10回	実践授業【器械運動：跳び箱運動の回転技】	跳び箱運動の回転技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	☐
第11回	実践授業【器械運動：鉄棒運動の基礎的な技】	鉄棒運動の基礎的な技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	☐
第12回	実践授業【器械運動：鉄棒運動の発展技】	鉄棒運動の発展技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	☐

第13回	実践授業【平均台運動：平均台運動の基礎的な技】	平均台運動の基礎的な技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	□
第14回	実践授業【平均台運動：平均台運動の発展技】	平均台運動の発展技の授業を行う。特に、専門スポーツ実習などで嫌悪感や不得意に感じた内容を中心に、自己の課題が達成できる授業展開をする。	□
第15回	授業のまとめ	授業全体の振り返りをし、課題（振り返りシート）を提出する。また、独自の授業アンケートを実施する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details) 事前指導として、学校体育に関連する文献及び論文を調査すること（毎週2時間）。また、事後指導として各回の講義で配布した資料、内容を整理しておくこと（毎週2時間）。具体的には、 各回で必要となる資料や課題などの準備物「テキスト・参考文献・web調査・研究室訪問」を活用し、質の高い内容に仕上げる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback) 課題については即時に教員がチェックし、改善点を指導する。また、その改善点については、ゼミ内全体に情報共有できるよう適宜学生に伝える。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	学びの基礎となる幅広い知識を習得しながら、専門的な知識（主に教職の器械運動）を育み、効率的な練習方法を学ぶことでその他の授業にも活用することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	学校体育を中心に関連する文献調査やWEB調査をし、情報リテラシーを駆使しながら自身の考えを持って発信することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	学校体育における専門知識をもとに、多角的で客観的な視点を持って問題を的確に判断し、解決することができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 成績評価は平常評価（各授業回の自己課題の達成度70%、授業の取り組み姿勢30%）とし、全て授業内に実施する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	時事通信出版局、授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック、時事通信社	978-4-7887-1527-1
2	前橋明、幼児体育実技編、大学教育出版	978-4-86429-434-8
3	世界思想社編集部、大学生 学びのハンドブック（4訂版）、世界思想社	978-4-7907-1707-2
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	石井一成、ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方、ナツメ社	978-4-8163-5057-3
2		
3		
4		
5		